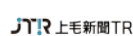


協賛社

特別協賛



プラチナスポンサー

ゴールドスポンサー



シルバースポンサー

親方ホルモン & Pleasant cafe 龍

カーリーグ

KAHS-ATELIER

なか又

NIRO&Co.

前橋まちなかエージェンシー

丸越

主なメディア掲載

・上毛新聞 2019年7月8日号
・上毛新聞 2019年10月17日号
・朝日ぐんま 2019年6月28日号

・広報まえばし 2019年6月15日号
・広報まえばし 2019年10月1日号
・タウンぐんま 2019年10月16日

・月刊raifu 11月号
・モテコ 2019年10月号
・ぐんラボ

主催 前橋めぶくフェス実行委員会

共催 前橋中央通り商店街振興組合

後援 前橋市／(公財)前橋市まちづくり公社

ご支援ありがとうございました。

前橋の大地における「芽吹き祭典」

FOOD, CRAFT & ART

前橋めぶくフェス



MAEBASHI MEBUKU FESTIVAL

REPORT 2019

About the Festival

めぶくフェスのコンセプト、前橋ビジョンとの関係、大切にしている3つの価値観、めぶきのプラットフォームについて紹介します。

CONCEPT

めぶくフェスのコンセプト



FOOD



CRAFT



ART

「芽吹きの祭典」をコンセプトに、前橋の大地における新しい「芽」にクローズアップするお祭りです。「フード」「クラフト」「アート」の3部門で構成され、本イベントのコンセプトや価値観に共感した、群馬県を中心に活動する多種多様な参加者が集結します。



MEBUKU FESTIVAL & MAEBASHI VISION

めぶくフェスと前橋ビジョンの関係

めぶく ○ 前橋市



2016年8月に官民合同で制定された、前橋の新しいビジョン「めぶく」。「よい商品やサービス、そして何より、よい人材が育つ土地であり続けよう」というのが、このビジョンに込められた普遍的なメッセージです。

前橋の中心市街地におけるビジョンの体现、そして市民が芽吹きの瞬間を感じられるような空間として「前橋めぶくフェス」は誕生しました。継続的に新たな芽吹きの発掘、紹介、応援を行います。

VALUES

大切にしている3つの価値観

1 体験できる コミュニティ

- ・売り手や作り手の顔が見える。
- ・コミュニケーションを大切にしている。
- ・コミュニティの一部であることを実感できる。
- ・他者とのつながりを意識している。

様々な体験の バランス

- ・都市と自然が調和している。
- ・商業、アートなどが偏りなく並存している。
- ・高齢者や障がい者、子供たちにも配慮している。
- ・多様な価値観を受け容れる精神がある。

3 意識のある 取り組み

- ・安心、安全な食材やサービスを提供している。
- ・本物を追求している。
- ・スピードや量よりも、品質にこだわっている。
- ・丁寧に手作りされている。
- ・子供たちの感性を育てる意識がある。
- ・チャレンジ精神に満ちている。

PLATFORM

めぶきのプラットフォームを目指して

前橋めぶくフェスは単にイベントを開催するだけではなく、年間を通じて前橋の芽吹きを応援する「プラットフォーム」となっていくことを目指しています。

HP



SNS



群馬県全域から集まった、魅力的な参加者のストーリーや想いを紹介しています。

SNSを通してイベントの告知、参加者の紹介を日常的に行います。

イベント



参加者が一堂に集結し芽吹きの祭典を開催。出会いが新たな芽吹きを創出します。

チラシ・ポスター



インターネットに触れる機会が少ない方々にも情報をお届けします。

2017年から始まり、これまで計6回開催されてきた前橋めぶくフェス。
過去3年間の歩みを年表にまとめ軌跡を辿ります。

2017

第1回目 6.25

記念すべき 初開催

めぶくフェスのコンセプトに共感した群馬県内外の多種多様な出店者が中央通りに集まり、ガリバーテーブルなど名物コンテンツも誕生しました。

初開催のときには53組だった芽吹きの輪が回を重ねるごとに大きくなり、第6回目には173組にまで広がりました。

第2回目 11.3-5

3日間 連続開催

約80もの出店者が参加。アート部門は中央通りに加え弁天通りやアーツ前橋など、様々な場所で展示などを行い、たくさんの賑わいが生まれた3日間でした。

2018

第3回目 7.1

秋に向けた 芽吹きの種まき

秋の本祭に向けたイベントとして開催。アート部門では、秋に開催されるめぶくフェスで展示される大きなフラッグを子供たちと制作しました。

第4回目 10.13-14

生活を彩る 様々な音に注目

ミュージシャンのライブやアーティストのパフォーマンスなど“音”に注目した企画を集めました。まちなかが様々な音であふれた2日間となりました。

2019

第5回目 7.7

まちなかのシンボル 広瀬川で開催

中央通りから場所を移し、広瀬川交水堰付近が会場となりました。芽吹きの乾杯やシンポジウムなど新しい企画が開催され、多くの人で賑わいました。

第6回目 10.26-27

テーマは 「ダイバーシティ」

外国籍の方や障がいを持った方、そして子供たちまで、誰もが楽しめるイベントを目指して開催され、ハロウィンにちなんだ企画も盛りだくさんでした。

53

SPECIAL CONTENTS

112

ガリバーテーブル

大きなテーブルを囲んで、100人が一堂に会して食事や会話を楽しむ企画です。名物コンテンツとして初回から第4回目のめぶくフェスまで開催されました。



134

153

SOUND of LIFE

音楽や歌声、パフォーマンス、料理の音、笑い声や歌声など生活を彩る様々な音に注目。アーティストのライブやパフォーマンスも会場を盛り上げました。



157

芽吹きの乾杯

午後7時7分ちょうどに開催。約500人の来場者と、河畔緑地再整備で動き出した広瀬川の未来とさらなる発展を目指す芽吹きの乾杯を行いました。



176

HALLOWEEN SPECIAL!!

ジャック・オ・ランタンを作るワークショップや、商店街の対象店舗をスタンプラリー形式でまわりお菓子を貰う「TRICK or TREAT」など、ハロウィンにちなんだ企画が行われました。





2019.7.7

まちなかのシンボル
広瀬川で開催

広瀬川交水堰付近

中央通りを飛び出し、広瀬川を舞台に三大祭りの一つである前橋七夕祭りと同時間開催しました。

雨がポツポツと降りだす時間帯もありましたが、小規模な会場ながら来場者の方が広瀬川のゆったりとした雰囲気の中、飲食やイベントを楽しんでいる様子が多く見受けられました。

当日はキッチンカーを中心としたフードの店に加え、新たな企画として

シンポジウムも開催。めぶくフェスの振り返りと今後のあり方、広瀬川の景観整備について議論されました。更に、前橋出身のアーティストによる七夕や星座をテーマにした展示やオリジナルの傘を子供たちと作るワークショップなど子供から大人まで楽しめるイベントが盛りだくさんで、会場はたくさんの笑顔に包まれていました。

イベントの最後には、水辺をキーワー

ドに全国で活動している「ミズベリングプロジェクト」とのコラボレーション企画が実現。午後7時7分に約500人もの来場者と一斉に乾杯し、記念撮影を行いました。

初の会場変更や新企画、他団体とのコラボレーションなどにチャレンジした第5回前橋めぶくフェス。広瀬川の新しい可能性を提示するイベントとなりました。





フード

ソーセージやかき氷などを販売する5台のキッチンカーが広瀬川に集合。この日がキッチンカーデビューとなった「婦恋高原ブルワリー」は前橋産の小麦を使ったビールを提供し、新店舗をオープンした「はなふさ有機農園」はオリジナルのシロップを使ったかき氷を販売しました。来場者の方はゆったりとした雰囲気の中で、美味しい料理やドリンクを楽しんでいました。



ワークショップ

ワークショップは2種類開催。ビニール傘に絵を描いて世界に一つだけのオリジナルの傘を作るワークショップは親子を中心に大人気でした。前橋出身のアーティスト、後藤朋美によるモールを使ったオリジナルの星座作りも事前に行われ、フェス当日には制作された約20のオリジナル星座が設置され、会場を彩りました。



シンポジウム

第一部「どーなってるの？めぶくフェス」では、2017年より開催されてきた前橋めぶくフェスの振り返りと、これからの在り方について来場者の方々と熱い議論が交わされました。第二部「どーなってるの？広瀬川の再整備」では、現在の状況や将来像についてエアーマネジメントやランドスケープの専門家を交えてディスカッションを行いました。



芽吹きの乾杯

水辺の新しい活用法や可能性を創造する団体「ミズベリング」との共同企画。7月7日午後7時7分、七夕の夜にライトアップされた広瀬川のほとりで約500名の来場者と共に乾杯を行いました。来場者は、広瀬川のほとりで9月にオープンしたお店「Le Vin(ルヴァン)」とコラボレーションした特別なドリンクを楽しみました。



2019.10.26-27

テーマは
「ダイバーシティ」

中央イベント広場
中央通り商店街

会場を中央イベント広場と中央通りに戻し、2日間開催された第6回前橋めぶくフェス。

「Diversity(ダイバーシティ)」をテーマに普段なかなか接する機会の少ない、群馬県在住の外国籍の方とサッカーのミニゲームを通して交流するイベントや、車椅子やアイマスクを使って前橋のまちなかにある障がいを楽しみながら乗り越えていく企画など様々な人たちが楽しめるコンテンツを用意しました。

また7月のめぶくフェスで好評だったシンポジウムもパワーアップして開催。アーバンデザインや外国籍の方の群馬での暮らしについて、大学生から見た「めぶく。」についてなど2日間を通して様々な立場の方が登壇し白熱した議論が展開されました。

更に、スペシャルコンテンツとして季節感を取り入れた「HALLOWEEN SPECIAL」を開催。大きなかぼちやをくりぬいてジャック・オ・ランタンを作るワークショップや「TRICK or TREAT」を合言葉にスタンプラリーをしながら商店街を練り歩くイベントが行われ、ハロウィンの仮装をした多くの子供達が参加していたのが印象的です。またアサヒビール様の協賛で乾杯イベントも行われ、様々な企画で盛りだくさんの2日間となりました。



世界と繋がる国際サッカー交流
feat. One WORLD

前橋市に在住する外国籍を持った方は約6000人。しかし普段の生活の中で彼らと接する機会はそう多くありません。今日は、そんな彼らとサッカーを通じて交流している「One World」とコラボレーション。中央イベント広場をフィールドに見立て、来場者とサッカーのミニゲームを通じてコミュニケーションできる場を作りました。当日は、子供達も多く参加し元気な声が会場に響いていました。



車イスに乗って全力で遊ぼう！
feat. バリアブレイクパーティー

前橋のまちなかで車椅子やアイマスクを使って、普段の生活では気付かない「バリア」を楽しみながら壊していこうという企画です。当日は全長12mのコースで行う車椅子レース「車椅子スラローム」やアイマスクをしてミッションに挑戦する「ダーククエスト」など障がいの有無を問わず、皆で楽しめる企画が行われました。



HALLOWEEN
SPECIAL!!

来場者が仮装し、まちなかの対象店舗でスタンプラリーをする「TRICK or TREAT」や、カボチャをくりぬいてジャック・オ・ランタンを作るワークショップなど、ハロウィンにちなんだイベントが盛りだくさん。また、アサヒビール様からビールとサイダーをご協賛いただき、来場者と一斉に芽吹きの乾杯を行いました。



シンポジウム

7月にも開催され、好評だったシンポジウムを中央イベント広場のステージで行いました。障がいを持った方や、外国籍の方、前橋のアーバンデザイン関係者など様々な立場の方が集結。パネルトークや講演を通して、今一度前橋について考え直し、そして理解を深めていくためのコンテンツとなりました。





2019年の 前橋めぶくフェスを 振り返って

前橋めぶくフェス実行委員長
共愛学園前橋国際大学 教授
奥田 雄一郎

今年度におきましては「前橋めぶくフェス2019」へのご協賛を賜り、誠にありがとうございました。私どもの活動にご理解ご協力いただいたご厚意に実行委員会及び事務局一同、心より御礼申し上げます。

この「前橋めぶくフェス」というイベントを企画する際、一つの目標としていた3年という節目を無事に終えることができました。

7月7日に行われた第5回前橋めぶくフェスでは、第一に広瀬川交水堰を会場に、初の中央通り商店街以外の場所を使っての開催。第二にイベントの集約化を目指し前橋七夕祭りと同日開催、また全国的な活動であるMIZBERINGとコラボレーション。そして第三に多くの方々と語り合う場としてシンポジウムを設けさせていただきました。10月26・27日に行われた第6回前橋め

ぶくフェスにおいては「Diversity(多様性)」をテーマとし、第一にまちと障がい者をテーマにした体験コーナーやトークショーなどのイベント、第二にSNSなどの情報発信を英語対応とし、当日にも群馬在住の外国籍の方々とサッカーコーナーやトークショーのイベント、そして第三に季節感を取り入れ子どもたちへ向けたハロウィンイベントなど、おかげさまで様々な新た

な挑戦をさせていただきました。

これもひとえに貴社のご支援あったことと、改めて感謝申し上げます。今後とも変わらぬご厚情とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

この前橋というまちは、前橋めぶくフェスを企画した3年前と比べ確実に新たな芽が育ちつつあります。私たち実行委員も3年間の活動の中でたくさんの新たな芽吹き瞬間に立ち会わ

せて頂きました。これらの小さき芽が、いつか大樹となることを願ってこれからも尽力させていただきたいと思います。

最後になりますが、皆様方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、前橋めぶくフェス2019のご挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。